令和７年度　血液事業概要

あゆみ

第 75 号

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
群馬県赤十字血液センター

目次

所長あいさつ……1

沿革……3

令和７年度 新聞記事……16

組織体制……17

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ……20

献血の概況……20

献血推進の概況……23

骨髄ドナー登録事業……29

検査・製剤の概況……30

供給の概況……32

医薬情報活動の概況……33

統計資料……34

令和７年度　表彰（団体のみ表記）……46

令和７年度迄の献血記録……48

所長あいさつ



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様をはじめ、献血協力団体、ボランティア、県・市町村、医療機関及び関係各位の皆様にはご支援ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、昨年度に続き令和７年度においても、多くの皆様に献血へのご協力をいただき、県内の医療機関からの血液製剤の要請に滞りなく供給することができました。重ねて御礼申し上げます。

群馬県における血液事業に関しまして、令和７年度の具体的な状況を申しますと、延べ87,177人（前年比98.5%）の方から貴重な血液をいただき、77,616本（前年比99.2%）の血液製剤を県内医療機関に供給させていただきました。しかし、少子高齢化により献血可能人口が減少する中、10代から20代の若年層における献血者割合は16%（前年17%）と、毎年徐々に悪化しており、近い将来を見据え、若年層への献血推進はますます重要になってきております。群馬県赤十字血液センターとしては、夏休みの親子献血教室や高校生へのセミナーを実施しているほか、大学生の方々にも群馬県学生献血推進連盟として献血推進活動にご協力いただいているところです。今後とも県民の皆様には、献血推進活動へのより一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

血液事業全般におきましては、令和７年７月より、血小板輸血による細菌感染症を予防する目的で、血小板製剤への「細菌スクリーニング検査」が導入されました。検査そのものに３日程度を要するため、導入当初一時的な混乱もありましたが、その後はより安全な血小板製剤を安定して供給できております。また、献血時にスムーズなご案内ができるよう、献血Web会員サービス「ラブラッド」の利用を推進しており、令和８年１月からは従来の献血カードが廃止されました。「ラブラッド」に未登録の皆様におかれましては、ぜひご登録いただき、事前予約にご協力いただけますようお願いいたします。このほか、年度末には血液事業システムの入れ替えが全国で行われました。これは献血者の皆様の目に直接触れる変化ではありませんが、日本赤十字社として、献血者の安全確保、そして医療機関への安全・安心な血液製剤の供給に向けての基盤となる取り組みです。

今後も安全な輸血用血液製剤の安定供給と、献血者の皆様の安全確保に向けて様々な努力してまいりますので、皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますよう

お願い申し上げます。

ここに令和７年度の実績をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和８年４月

群馬県赤十字血液センター

所長　　横濱　章彦

沿革

●1962 年（昭和 37 年）

8.15　県、市町村の援助により血液銀行を新築［建設面積 209.51 ㎡］

9. 1　初代所長　久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）

10.20　血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群薬第 9472 号）
医薬品製造業認可証認可となる（第 8356 号）
医薬品販売業認可証承認となる（第 43 号）
群馬県赤十字血液銀行の業務開始
移動採血車第１号(２ベッド)を整備
愛称を県民より募集し「(おおとね号)」と決まる
ABO 式血液型(オモテ・ウラ)
Rho 式血液型
梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）
O型力価測定（Low、High）実施



●1964 年（昭和 39 年）

8.21　閣議決定（献血の推進について）

9.　肝機能検査（S-GOT）開始

●1965 年（昭和 40 年）

2.13　血液銀行を血液センターに改称

8.13　移動採血車おおとね２号（３ベッド）を整備

8.16　第２代所長　吉野文郁就任

●1966 年（昭和 41 年）

3.31　事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積　381.08 ㎡）となる

●1967 年（昭和 42 年）

2.24　血液運搬車車庫を新築(45.37 ㎡)

●1968 年（昭和 43 年）

3.26　移動採血車おおとね３号（２ベッド)を整備(採血車３台となる)

9. 4　移動採血車第１号を廃車（37 年整備）(採血車２台となる)

●1969 年（昭和 44 年）

3.　O型力価測定廃止

●1970 年（昭和 45 年）

1.24　開設以来延べ献血者 10 万人達成

9.　不規則抗体スクリーニング検査開始

●1971 年（昭和 46 年）

4. 1　血液代金差額について国庫補助を受ける(昭 61.3.31 廃止)

4.15　群馬県交通安全保障協会より血液運搬車１台寄贈

7. 1　HBs 抗原検査開始（SRID 法）

開始
9. 4 移動採血車車庫を新築(108 ㎡)
●1972 年（昭和 47 年）
1. 1　免疫電気泳動法（IES 法）にて HBs 抗原・抗体検査を開始
3.23　移動採血車おおとね１号（３ベッド)を整備(採血車３台となる）
●1973 年（昭和 48 年）
6.21　赤十字アルブミン 20 販売開始
11.20 移動採血車おおとね２号（４ベッド）を更新（40 年整備）
●1974 年（昭和 49 年）
4. 1　血液代金自己負担金給付制度開始（昭 61.4 月廃止）
9.24 成分製剤 11 品目の許可を受ける
●1975 年（昭和 50 年）
1.15　はたちの献血キャンペーンはじまる
8.19　移動採血車おおとね３号（４ベッド）を更新（43 年整備）
10.　梅毒検査緒方法より RPR 法に変更
●1976 年（昭和 51 年）
10.2 成分製剤２品目追加許可を受ける
11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より献血運搬車１台寄贈
●1977 年（昭和 52 年）
6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車１台寄贈
12.1 物置を新築 28.32 ㎡
●1978 年（昭和 53 年）
3. 4 開設以来延べ献血者数 50 万人達成
10.1 HBs 抗原検査 IES 法より R-PHA 法に変更
●1979 年（昭和 54 年）
11.1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
11.26 移動採血車おおとね５号（５ベッド)を整備(採血車４台となる）
●1980 年（昭和 55 年）
3.26　検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14 ㎡）
7.　肝機能検査 S-GOT より S-GPT に変更
10.1 献血登録制を始める
●1981 年（昭和 56 年）
5. 1 生化学的検査機器 ACA6008N を導入
6. 2　抗 HBs 人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
9. 1　生化学的検査結果の異常者への通知を開始
肝機能異常者で HBs 抗原陽性者へ通知を開始
12.18 日本石油より献血運搬車　日産　セドリック（ミスターセイフテイー号）１台寄贈
●1982 年（昭和 57 年）
4.1　献血手帳の一部改正となる(供給記録欄を削除）
生化学的検査結果全員通知を開始
8.27　移動採血車おおとね１号（４ベッド）を更新（47 年整備）

9. 1 HBs 抗原検査結果陽性者に通知を開始

●1983 年（昭和 58 年）

8. 9 開設以来延べ献血者 100 万人達成

●1984 年（昭和 59 年）

3. 8 血液製剤１品目（分画プラズマ）の製造許可を受ける

4. 5 赤十字アルブミン 50 供給販売開始

7.24 移動採血車おおとね３号（４ベッド）を更新（50 年整備）

12.20 県、市町村の補助を受け血液センターを新築移転
（建物面積 2,660.07 ㎡、車庫 480 ㎡、物置 7.2 ㎡）

12.24 医薬品製造業許可第 8581 号を受け業務開始
血液センター採血業許可証
厚生省収薬第 34214 号
成分製剤２品目の追加製造承認を受ける



●1985 年（昭和 60 年）

3.28 HB ワクチン用製剤２品目追加製造許可を受ける

7.30 移動採血車おおとね６号（４ベッド）を整備（採血車５台となる）

3.31 国庫金による血液代金給付制度廃止

●1986 年（昭和 61 年）

4. 1 採血及び供血斡旋業取締法施行規則の一部改正（400mL・成分献血が導入）
第３代所長 藤井佐司就任
群馬県献血推進員２名設置

7. 生化学自動分析装置 機種変更(ACA6008N より ACA8000 へ)

9.12 移動採血車おおとね２号（４ベッド）を更新（48 年整備）

9.16 多目的血球計数装置Ｅ-4000 整備

10.1 HTLV-Ⅰ抗体検査開始(PA 法)

10.16 HIV 抗体検査開始（ELISA 法）

11.6 成分採血装置Ｖ50 整備し成分採血を開始

12.18 血液検査（血算）サービス開始

12.23 移動採血車おおとね７号（４ベッド）を整備（採血車６台となる）

●1987 年（昭和 62 年）

7.31 開設以来延べ献血者 150 万人達成

10. HIV 抗体検査 ELISA 法より PA 法に変更

10.7 プラズマコレクターシステム整備

●1988 年（昭和 63 年）

1.21 自動血液型判定機（グルバマチック 2000 システム整備）

5. 1 献血者自己申告制度（HIV）開始

9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬

車　トヨタ　コロナ（大鵬号）１台寄贈

●1989 年（平成元年）

1. 8　移動採血車おおとね５号（５ベッド）を更新（54 年整備）

2.10　神戸義二氏より献血運搬車カローラ（神戸号）１台寄贈

3.15　成分採血装置 CS3000 整備

3.31　登録・パーソナルコンピュータ（NEC 5200）整備

12.27 HCV 抗体検査（ELISA 法）、HBc 抗体（HI 法）開始

●1990 年（平成 2 年）

3. 6　成分採血装置オートフェレーシスＣ整備

5.21　オープン献血実施

6.25　バクスター社より器材運搬車トヨタ　ハイエース１台寄贈

10.8 移動採血車（おおとね６号）成分採血併用型に改造し採血車での成分採血を開始

12.1　コンピュータトータルシステム（NEC）整備

12.20　オープン採血用成分採血機材運搬車（コースタービッグバン）整備

●1991 年（平成 3 年）

3.11　成分採血装置 NDP 整備

4. 1　凝固因子製剤用原料血漿確保始まる（50 万 L）

9.16　４週６休制施行実施.

9.30　開設以来延べ献血者数 200 万人達成

12.25　群馬県骨髄データセンター業務開始

●1992 年（平成 4 年）

1.21　赤血球 M・A・P（日赤）製造許可を受ける

1.31　HCV 抗体検査 ELISA 法から PHA 法に変更

3. 1　国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始（クロスエイトM250、500、1000）

6.　ＨＣＶ陽性者通知開始（通知基準による）

12.3　赤血球Ｍ・Ａ・Ｐ（日赤）製造開始

12.19　移動採血車おおとね１号（４ベッド）を更新（57 年整備）

●1993 年（平成 5 年）

2. 1　新登録者カード発行

4. 1　群馬県輸血懇話会設立

5. 1　成分採血装置ヘモネティクス MCS 整備

10.1　高崎出張所を設置（高崎熱血倶楽部）イーストタワービル１階に開設

10.15　移動採血車おおとね７号（４ベッド）を廃車（採血車５台となる）

●1994 年（平成 6 年）

2.27　群馬県献血フェスティバル開催（伊勢崎市民文化会館）

3.28　４週８休制度施行実施

5.18　血液 X 線放射線照射装置（MRB-1520A-TV）整備し依頼による照射血液供給を開始

7.　生化学自動分析装置　機種変更(ACA8000 より日立 7250 へ）

9. 1　コンピュータ全国統一センターシステム（ＮＥＣ）整備
成分採血装置ミニオートフェ

レーシスＣ整備
11.7 移動採血車おおとね３号（４ベッド）を更新（59 年整備）
●1995 年（平成 7 年）
6. 1　自動感染症検査機器 PK7200 を整備
●1996 年（平成 8 年）
3.28　検診車の整備
4. 1　第４代所長に松山四郎就任
第３代所長藤井佐司名誉所長に就任
6.15　国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車　スバル　インプレッサ１台寄贈
9. 1　献血者全員の試験官方式による検体保管開始
9. 3　採血番号ラベルシート（ID カード）10 桁に変更
9.26　開設以来延べ献血者数 250 万人達成
10.　出庫可否判定における検査履歴照合開始
11.30　お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車　三菱　レグナム　１台寄贈
●1997 年（平成 9 年）
1.30　移動採血車（お年玉付郵便葉書寄付金）おおとね６号（４ベッド）を更新（60 年整備）
3.13　移動採血車おおとね２号（４ベッド）を更新（61 年整備）
4. 1　医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正（２部１データセンター９課１出張所 17 係）改組
9.　ヒトパルボウィルス B19 抗原検査の評価試験開始
10.1　職員定数 100 名となる
12.28　血液Ｘ線照射装置（MBR-1520A-TM）を追加整備（２機となる）
●1998 年（平成 10 年）
2. 1　梅毒検査 RPR 法より TPPA 法に変更
3.19　オープン献血会場で血小板採血を開始
4. 1　週休２日制実施
職員定数 105 名となる
7. 1　放射線照射血液が承認され薬価により供給開始（全血，赤血球Ｍ・Ａ・Ｐ，濃厚血小板）
9. 1　前橋出張所（前橋ハートランド）大同生命前橋ビル１階に開設
12.21　放射線照射血液が追加承認され供給開始（洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血）
●1999 年（平成 11 年）
1.26　沖電気工業より保冷庫付血液運搬車寄贈　日産　AD　マックスバン保冷庫付
2. 1　原料用血漿について当日以外の服薬者より PPP のみの採血始める
2.26　移動採血車おおとね７号（４ベッド）を整備（採血車６台となる）
3. 5　前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア１台寄贈
4. 1　採血基準の改正により献血年齢 69 歳まで引き上げとなる

5.12　統一システム全国献血者一元管理に移行となる
6. 2　群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター１台寄贈（創立 20 周年記念）
9. 1　核酸増幅検査（NAT）開始
●2000 年（平成 12 年）
1. 1　HTLV-1 抗体検査陽性者に通知開始
2. 1　核酸増幅検査　500 本プールより 50 本プール検査に変更
2.29　県の助成を受け血液センター１階部分を全面改修
（供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設)、一部増築
3.17　ヒトパルボウィルス B-19 抗原検査正式導入となる
5.16　NAT 済み血小板供給を開始
7.26　群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内11市長に献血推進メッセージを届ける（28 日まで）
8.28　血液センター増築及び改修工事開始
10.3　検診車整備　日野　リエッセⅡ
11.26　高崎出張所開設以来延べ献血者 10 万人達成
●2001 年（平成 13 年）
2.　移動採血車おおとね９号（４ベッド)整備(採血車７台となる）
3.30　県の補助を受け増築及び改修工事竣工（1,746.58 ㎡を増築し、総延べ床面積 4,406.65 ㎡）となる
4. 1　第５代所長に大月邦夫就任
5.22　HCV 抗体検査、リエントリー開始
7. 3　血液センター増改築竣工記念式典
8. 6　赤十字アルブミン 25 販売開始
12.28　開設以来延べ献血者数 300 万人達成
●2002 年（平成 14 年）
2.15　国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車　日産　ウイングロード１台寄贈
4. 1　太田出張所「太田 YOU 愛」を東毛学習文化センター前に設立
HCV 抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により､HCV 抗体検査陽性者希望者全員に通知を開始
4.10　太田出張所「太田 YOU 愛」東毛学習文化センター前に開設業務開始
7. 5　DONOR CARD 集発刊
7.31　薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法の一部を改正され名称も「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変更され公布される
移動採血車おおとね５号（５ベッド）を廃車（採血車６台となる）
12.31　移動採血車おおとね１号（４ベッド)を廃車(採血車５台となる）
●2003 年（平成 15 年）

4. 1　HBc 抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により HBc 抗体検査陽性者全員に通知を開始

6. 1　ホームページ開設
高崎出張所改修及び増設工事竣工（81.33 ㎡を増設し総延べ床面積 283.37 ㎡）となる

6.13　献血者の献血歴の確認　遡及調査の実施（梅毒・HBV・HCV 及び HIV）

10.1　高崎出張所（高崎熱血倶楽部）10 周年記念式典

12.12　高崎出張所開設以来延べ献血者 15 万人達成



●2004 年（平成 16 年）

1.30　２ヶ月間（60 日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始

3.31　供給冷凍室（貯留保管用）増築工事竣工(46.15 ㎡を増築し、総延べ床面積 4,452.8 ㎡）となる

6.20　第二次血液事業統一システム導入

8.15　献血後情報の対応手順の変更（平 16.7.30 付厚生労働省「輸血用血液等遡及調査に関するガイドライン」に基づき）

8.28　核酸増幅検査 50 本プール検査より 20 本プール検査に変更

8.31　90 日間貯留保管済み FFP の供給開始

10.1　献血者本人確認全国実施

12.28　120 日間貯留保管済み FFP の供給開始

●2005 年（平成 17 年）

3.31　150 日間貯留保管済み FFP の供給開始

4. 1 第６代所長に土田嘉昭就任
群馬県献血メールクラブの開始

7.29　６ヶ月間（180 日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始

11.1　第７代所長に遠藤敬一就任

●2006 年（平成 18 年）

3. 1　成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施

7.13　群馬県立県民健康科学大学のオープン献血会場を皇太子殿下がご視察
第 42 回献血運動推進全国大会開催（群馬県総合スポーツセンター）
サンデン株式会社より血液運搬車　日産　エクストレイル１台寄贈
富士重工業株式会社群馬製作所より血液運搬車　スバルフォレスター１台寄贈
群馬県病院協会、（社）群馬県医師会、（社）群馬県歯科医師会、（社）群馬県薬剤師会、（社）群馬県看護協会より器材運搬車　いすゞ　エルフ１台寄贈

8.28　日赤ポリグロビン N 注 5%

2.5g/50mL の販売開始

9.15　日赤ポリグロビン N 注 5% 0.5g/10mL、日赤ポリグロビン N 注 5%5.0g/100mL の販売開始

9.23　保存前白血球除去された成分採血由来新鮮凍結血漿製剤の供給開始

10.1　献血カードの導入
検査業務が埼玉県赤十字血液センターへ集約

10.26　血小板成分採血における保存前白血球除去及び初流血除去の実施



●2007 年（平成 19 年）

1.16　全血採血由来赤血球製剤の保存前白血球除去及び初流血除去の実施

3. 3　国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車　スバル　インプレッサ１台寄贈

8. 1　保存前白血球除去された全血採血由来新鮮凍結血漿製剤の販売開始

11.14　有効期間「採血後４日間」に変更となった血小板製剤の供給開始

●2008 年（平成 20 年）

2. 8　血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法(CLEIA 法）へ変更（同年８月全国で導入）

7.21　輸血用血液製剤の新バーコード表示による製造開始

7.23　初流血除去を実施した成分採血由来新鮮凍結血漿の供給開始

8.　新 NAT システムへ切り替え（HIV-1 グループ O 及び HIV-2　の検出も可能）

●2009 年（平成 21 年）

1.29　前橋出張所改装工事竣工

2.11　前橋出張所「前橋ハートランド」10 周年記念イベント開催（於　ユナイテッド・シネマ前橋）

3.10　移動採血車おおとね 3 号（４ベッド）を整備

3.15　糖尿病関連検査（グリコアルブミン検査）の開始

4. 1　第８代所長に小泉武宣就任
高崎出張所（高崎熱血倶楽部）の定休日が第４月曜日に変更

4.23　移動採血車おおとね２号（４ベッド）を廃車（採血車５台となる）

11.23　第１回献血感謝デー開催（於　イオンモール高崎）

12.28　血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビン N5% 静注 5g/100mL の販売開始他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始

●2010 年（平成 22 年）

1.27　1980 年から 1996 年の英国滞

在歴の献血制限が「１日以上」（１泊以上）から「通算１ヶ月以上」（31 日以上）に緩和

2. 5　血小板製剤及び成分採血由来血漿製剤の販売名の変更に伴い、（照射）濃厚血小板-LR「日赤」と（照射）濃厚血小板 HLA-LR「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については６ヶ月間(180 日間)貯留保管後、順次供給開始

2.13　高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計１台寄贈

5.31　血液センター２階間仕切り改修工事竣工

11.23　第２回献血感謝デー開催（於イオンモール高崎）

12.14　高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止

12.15　高崎出張所高崎駅献血ルーム Harmony（JR 高崎駅東口３階イーサイト内）業務開始

12.28　血球計数検査サービス（８項目）を 200mL 全血献血へ拡充開始



高崎駅献血ルーム Harmony

●2011 年（平成 23 年）

2.15　（財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（４ベッド）を整備
（採血車６台となる）

3. 7　移動採血車おおとね７号（４ベッド）を廃車（採血車５台となる）

4. 9　東日本大震災対策支援要員として職員を派遣（計５回）

7.27　赤十字アルブミン５％静注 12.5g/250mL の販売開始

8.16　群馬県より［平成 23 年度献血・骨髄ドナー登録推進業務（緊急雇用創出事業）］委託を受託（9.1 実施）

11.23　第３回献血感謝デー開催（於イオンモール高崎）

●2012 年（平成 24 年）

4. 1　広域事業運営体制の開始（１部　１データセンター　６課　３出張所　19 係）改組

8. 6　献血血液の検査基準の変更
輸血後の B 型肝炎対策として「HBc 抗体（C.O.I.）1.0 以上 12.0 未満かつ HBｓ抗体価 200mIU/mL 未満」の献血者に対する献血制限の実施

10.1　シャーガス病に係る安全対策開始

11.23　第４回献血感謝デー開催（於イオンモール高崎）





太田献血ルーム

●2013 年（平成 25 年）

1.16　「献血の同意説明書」の導入

1.26　日赤ポリグロビンN10%静注５g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注 10g/100mL の販売開始

2. 4　太田出張所改修工事に伴う採血業の休止

2.26　血液センターの１階製造部門に係る部分の改修工事開始

3. 8　災害救護機材配備（タブレット型ＰＣ端末５式）

3.25　災害救護資材配備（雨衣・防寒着）

3.27　災害救護資材配備(非常食)

3.31　血液センターの１階製造部門に係る部分の改修工事完了

5. 2　太田出張所太田献血ルーム業務開始

9. 3　成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を 450mL から 480mL に変更。
３つの製剤規格容量を整数倍へ（120mL、240mL、480mL）

11.24　第５回献血感謝デー開催（於イオンモール高崎）

●2014 年（平成 26 年）

1.28　災害救護機材配備（ノート型 PC 端末２台、デジタルカメラ１式）

3.27　災害救護資材配備（非常食）

4. 1　第９代所長に林 泰秀就任

5.11　血液事業情報システム稼働（供給部門）

6.25　血液事業情報システム稼働（全部門）

8. 1　個別ＮＡＴ検査開始

9.29　関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始

10.1　検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始

11.24　第６回献血感謝デー開催（於イオンモール高崎）

●2015 年（平成 27 年）

2.23　前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止

2.26　災害救護機材配備（発電機１台）

2.28　前橋出張所前橋献血ルーム業務開始

3.10　災害救護資材配備（スノーダンプ５台、スコップ 10 本、ストーブ３台）

3.25　災害救護資材配備（非常食）

3.31　血漿分画製剤の全製剤販売終了
7. 8　北関東高校献血打合せ会開催
11.22 第7回献血感謝デー開催（於けやきウォーク前橋）

●2016年（平成28年）
2. 2　（財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（４ベッド）を整備
2.19　災害救護機材配備（ADバン）
3.20　献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於　イオンモール高崎）
3.30　移動採血車おおとね９号を廃車
4. 1　ALT検査による製品除外基準の変更
血液センター広報誌 Yell 創刊
9.13　照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給開始
11.23 第8回献血感謝デー開催（於けやきウォーク前橋）
12.16 災害救護機材配備（スチールラック）

●2017年（平成29年）
2.27　血小板採血調整システム稼働
2.28　災害救護資材配備（トラベルバッグ）
3.20　第２回キッズ献血（於　イオンモール高崎）
3.22　災害救護資材配備（ヘルメット）
3.24　災害教護資材配備（非常食）
4. 1　献血者の不規則抗体スクリーニングの検査法変更
5.18　国際ソロプチミスト前橋より献血広報車　スバル　インプレッサ１台寄贈
11.18 全社統合情報システム導入
11.26 第９回献血感謝デー開催（於けやきウォーク前橋）
12.19 災害救護資材配備（テント）


前橋献血ルーム

●2018年（平成30年）
2.21　災害救護資材配備（非常食）
3.21　第３回キッズ献血（於　イオンモール高崎）
4.1　第10代所長に丸山　健一就任
10.29 献血推進・予約システム（ＣＭＳ）導入
11.25 所長感謝状贈呈式開催（於けやきウォーク前橋）
12.6　災害救護機材配備（スポットエアコン２台、ダクト２本）

●2019年（平成31年、令和元年）
1. 6　第10回献血感謝デー開催（於けやきウォーク前橋）
2.19　災害救護資材配備（非常食）
3.21　第４回キッズ献血（於　イオンモール高崎）
10.24 第11回献血感謝デー（於　け

やきウォーク前橋）
12.17　災害救護機材配備（大判インクジェットプリンター）
●2020 年（令和２年）
3.25　災害救護資材配備（非常食）
4. 1　移動採血車おおとね１号（４ベッド）を更新
4. 1　移動採血車おおとね３号（４ベッド）を更新
9.30　災害救護機材配備（ヤマハ発動機一式）
8. 5　HEV の個別 NAT スクリーニング導入
11.12　AKB48Team８清水麻璃亜さん群馬県献血推進ガールに就任
●2021 年（令和３年）
2.10　災害救護資材配備（非常食）
3.12　災害救護資材配備（非常食）
●2022 年（令和４年）
1.　採血前検査における指先穿刺導入
2. 3　災害救護機材配備（特定小電力トランシーバー）
2.16　災害救護資材配備（非常食）
3.25　輸血用血液製剤への添付文書の同梱廃止
8. 2　災害救護資材配備（ポータブル電源２台）
9.28　献血 Web 会員サービス「ラブラッド」のアプリ化による受付業務のデジタル化運用開始
●2023 年（令和５年）
2.15　災害救護資材配備（非常食）
3.15　赤血球液-LR「日赤」の有効期間延長（28 日間）
4. 1　第 11 代所長に外松　学就任
11.9　災害救護資材配備（防災用マルチライト一式）
●2024 年（令和６年）
2. 5　健診車更新（２台）
2. 9　災害救護資材配備（非常食）
3. 1　照射凍結赤血球-LR「日赤」用時解凍洗浄の供給開始
6.18　災害救護機材配備（スポットヒーター２台）
6.19　災害救護機材配備（クールジェッター２台）
7. 7　延べ献血者 500 万人達成
8. 1　テレビアニメ「菜なれ花なれ」コラボキャンペーン実施
●2025 年（令和７年）
2.12　災害救護資材配備（非常食）
2.25　災害救護資材配備（ヘルメット）
4. 1　第 12 代所長に横濱章彦就任
7. 2　災害救護資材配備（ノートパソコン２台）
7. 30　血小板製剤への「細菌スクリーニング検査」導入に伴い、照射濃厚血小板-LRBS「日赤」等血小板製剤の有効期間延長（採血後６日間）
9.23　ぐんま赤十字フェスタ 2025 開催
（於　けやきウォーク前橋）
●2026 年（令和８年）
1. 5　献血カード・献血手帳の新規発行および更新を終了し、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」へ献血記録等の機能を集約
2.26　災害救護資材配備（非常食）

3.15 「温泉むすめ」コラボキャンペーン実施

令和７年度 新聞記事

献血の大切さ学ぶ

前橋 夏休み親子教室に80人

献血を身近に感じてもらおうと、県赤十字血液センター（前橋市）は21、22の両日、夏休み親子献血教室を開いた。約80人の親子らが同センターや埼玉県の施設を訪れ、献血された血液が輸血用血液製剤として医療機関に運ばれるまでの流れを学んだ。

参加者は関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所（同県東松山市）を訪れ、献血された血液の検査、輸血用血液製剤の製造工程を見学。県赤十字血液センターへと移動し、献血バスで献血の疑似体験もした。

「献血の日」（８月21日）に合わせて企画し、15回目。（高木大喜）



献血の疑似体験をする子ども

上毛新聞　令和７年８月26日（火）

献血者に「健康御守」

県赤十字血液センター配布



配布しているお守り

献血者への感謝を込めて、県赤十字血液センター（前橋市天川大島町）は27日、献血した人に前橋東照宮（同市大手町）のお守りを進呈する企画を始めた。来年1月12日まで。

配布しているのは同神社で祈とうした特製の「健康御守」。前橋、高崎、太田の3市の献血ルームと一部の献血バスで配布する。全体で3600個を用意した。

献血ルームの受付日や対象の献血バスは同センターのホームページで確認できる。問い合わせは同センター（平日、☎027・224・2118）へ。（真下達也）

上毛新聞　令和７年12月28日（日）

学生や職員 献血に協力

前橋 有坂中央学園



献血バスで採血する学生

有坂中央学園（中島慎太郎理事長）は27日、前橋市古市町の同学園で献血活動を行い、近隣のグループ校の学生や留学生、職員が協力した。

参加者は健康状態を確認した後、献血バスの中で400ミリリットルか200ミリリットルの血液を提供した。初めて献血をした中央情報経理専門学校保育福祉学科2年の柴山悠希さんは「誰かの役に立つならまたやりたい」と話した。

若いうちに経験するとその後も協力しやすくなることや、留学生に献血文化を知ってもらうことを狙い、同学園は年2回、献血活動をしている。（高野聡）

上毛新聞　令和７年11月28日（金）

献血でサンダーズグッズ

きょうから３会場



献血の重要性を広く知ってもらおうと、県赤十字血液センターは、バスケットボール男子りそなBリーグ１部（B１）の群馬クレインサンダーズとコラボレーションしたキャンペーンを１日から実施する。選手を起用したポスターを県内各地の自治体、学校、企業などに配布するほか、献血した人にオリジナルグッズを渡す。

キャンペーンのグッズ配布は、高崎市八島町の高崎駅献血ルーム「ハーモニー」、前橋市南町の前橋献血ルーム、太田市飯塚町の太田献血ルームの３会場で行う。キャンペーンへの参加希望を伝えた上で献血すると、ポスターやリストバンド＝写真＝がもらえる。いずれも数量限定で、リストバンドの配布は14日まで。

グッズの在庫状況は各献血ルームに問い合わせる。（須永彪月）

上毛新聞　令和７年11月１日（土）

国で栽培されたが、93年に組合が解散。角田さんが10年かけて再生に取り組み、2018年に復活させた。葉が和服のえりのように斜めに広がる姿が特徴で、白根から葉まで柔らかく甘みが強い。

昨年末に開かれた最終回では参加者に修了証が手渡され、「自宅でも種から育てること」「ネギの販売が予定された。角田さんは「熱心に通ってくれ、参加者のパワーに後押しされた。今後も石倉ネギを作る人を増やしていきたい」と話した。

12日午前9時から、同市石倉町の石倉城外堀公園で行われるどんど焼きに合わせ、焼き裁培に自信が持てた」といった感想が出ている。

ネギを味わう体験会やネギの販売が予定されている。（丸山朱理）



献血への協力を呼びかける県学生献血推進連盟のメンバー

学生団体 献血呼びかけ

前橋で啓発 60人協力

大学生ら専門学校生でつくる県学生献血推進連盟（愛称・おかめきけ）は、前橋市の商業施設「けやきウォーク前橋」で啓発イベントを開いた。買い物客に献血の重要性を訴え、60人が協力した。

同連盟は、若年層の献血協力者を増やすことなどを目標に活動している。この日は、メンバーが「献血へのご協力をお願いします」と買い物客に呼びかけた。守岡祈会長（20）＝高崎経済大2年＝は「少しでも興味があれば献血をしたり、私たちの活動に参加したりしてほしい」と話した。

県赤十字血液センターによると、血液中の全成分を提供する「全血献血」ができる年齢の上限は69歳だが、県内の50歳未満の献血者数は年々減少しているという。（高木大喜）

上毛新聞　令和８年１月３日（土）

組織体制

群馬県赤十字血液センター



〇所　在　地　〒379-2154
群馬県前橋市天川大島町
2-31-13
〇開設年月日　昭和59年12月20日
〇敷地面積　3,835.73 ㎡
〇建物の構造　本館棟／鉄筋コンクリート造
地下１階　地上２階
（塔屋付）
別館棟／鉄骨造　地上３階
（塔屋付）
〇延床面積　4,452.8 ㎡

高崎駅献血ルーム Harmony

受付時間　全血献血／10：00～13：00
14：00～17：30
成分献血／10：00～12：30
14：00～17：00
休 業 日　年末年始
床 面 積　325.58㎡
ベッド数　11ベッド
（全ベッド液晶テレビ付）
採血装置　成分・全血採血装置



〒370-0849　群馬県高崎市八島町222　JR高崎駅東口3階　イーサイト内
TEL027-327-8139　FAX027-327-8143

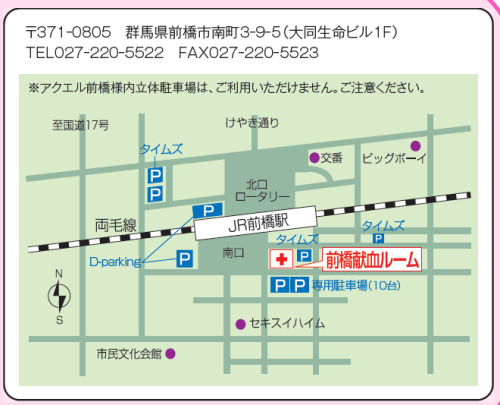


前橋献血ルーム

受付時間　全血献血／10：00～13：00
14：00～17：30
成分献血／10：00～12：30
14：00～17：00
休業日　年末年始
床面積　310.19 ㎡
ベッド数　10 ベッド
（全ベッド液晶テレビ付）
採血装置　成分・全血採血装置



〒371-0805　群馬県前橋市南町3-9-5（大同生命ビル1F）
TEL027-220-5522　FAX027-220-5523

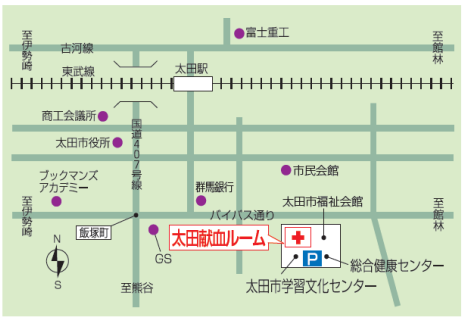


太田献血ルーム

受付時間　全血献血／10：00～13：00
　　14：00～17：30
　　成分献血／10：00～12：30
　　14：00～17：00
休業日　年末年始
床面積　396 ㎡
ベッド数　10 ベッド
　　（全ベッド液晶テレビ付）
採血装置　成分・全血採血装置

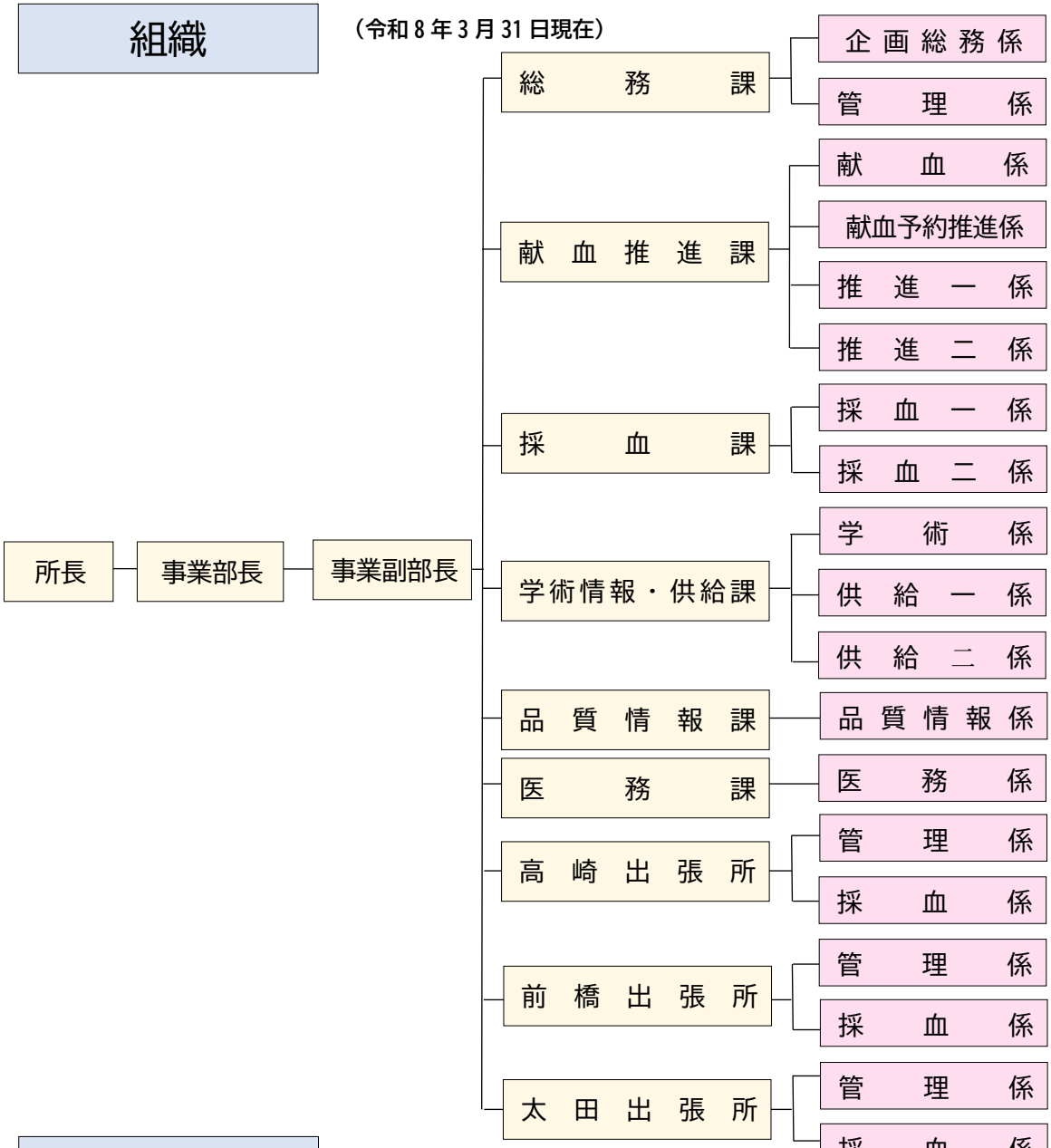


〒373-0817　群馬県太田市飯塚町1549-2（太田市学習文化センター前）
TEL0276-60-3300　FAX0276-49-3300



組織

（令和 8 年 3 月 31 日現在）

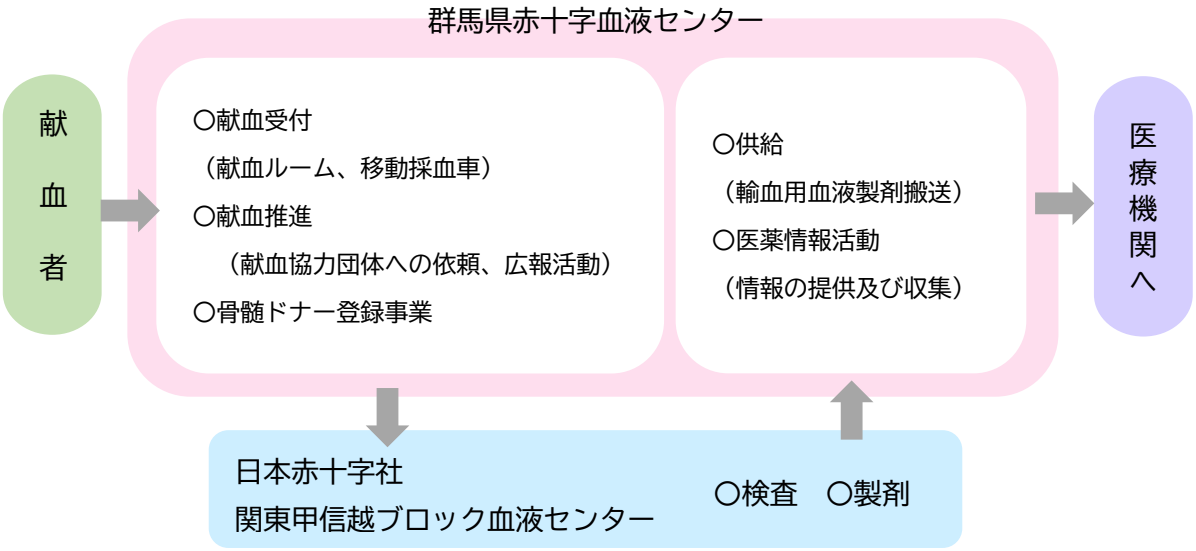


職員

（令和 8 年 3 月 31 日現在）

医師	薬剤師	看護師	臨床検査技師	事務職員	合計
1	2	27	1	54	85

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



献血の概況

令和７年度、県民の皆様のご理解とご協力をいただき、県内で延べ87,177名の献血協力をいただきました。おかげさまで県内の各医療機関へ輸血用血液製剤を滞りなく供給することが出来ました。

献血者数につきましては、受付者数 92,950名（前年度比97.7%）、献血者数は 87,177名（前年度比98.5%）でした。

献血種類別の内訳は全血献血者数 59,001名（前年度比98.3%）、成分献血者数 28,176名（前年度比99.0%）でした。

全血献血者数のうち400ｍＬ献血者数は 54,874名（前年度比98.0%）、200ｍＬ献血者数は 4,127名（前年度比101.8%）でした。200ｍＬ献血を１単位として換算すると113,875単位（前年度比98.1%）でした。また、全血献血における400ｍＬ献血構成比は93.0%（前年度比0.2%減）でした。

一方、成分献血における血小板成分献血者数は 9,651名（前年度比112.0%）、血漿成分献血者数は 18,525名（前年度比93.3%）でした。

令和７年度の献血推進対策として「若年層への献血推進」を重点的に努めました。群馬クレインサンダーズの協力のもと献血推進ポスターを作成し、広く県民の皆様へ啓発を行いました。令和８年３月には群馬県内の温泉むすめとのコラボレーションしたキャンペーンを行い、幅広い層の方にご協力をいただきました。

今後も引き続き安全な輸血用血液製剤の安定供給のため取り組んでまいります。

１ 献血ルーム

■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Ｈａｒｍｏｎｙ」

「高崎駅献血ルームＨａｒｍｏｎｙ」は、交通やショッピングに便利なＪＲ高崎駅東口３階イーサイト内に平成22年12月15日に開設しました。

内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたものとなっており令和６年７月には、待合ロビーのソファーをリニューアルし、くつろいで休めるとご好評を頂いております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいており、日々多くの献血者の方にお越し頂いております。

363日開設：受付者数　19,642名
　　献血者数　18,523名（１日平均献血者数51.0名）
献血種類別では全血献血者数が 8,616名、内400mL献血者 8,249名
（400mL献血率95.7%）成分献血者数が 9,907名

■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内２番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル１階に、平成10年９月１日に開設いたしました。令和３年２月にソファーの貼り替えを行いました。また、令和８年３月には 外装と内装をリニューアルし、けんけつちゃんに囲まれた暖かい雰囲気の空間に生まれ変わりました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

363日開設：受付者数　16,526名
　　献血者数　15,741名（1日平均献血者数43.4名）
献血種類別では全血献血者数が 6,774名、内400mL献血者 6,483名
（400mL献血率95.7%）成分献血者数が 8,967名

■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は平成14年４月10日に、太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に開設いたしました。県内一の広さを誇り、全国的に珍しい単独平屋建ての施設です。平成25年５月２日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に倣い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

363日開設：受付者数　17,243名
　　献血者数　16,227名（１日平均献血者数44.7名）

献血種類別では全血献血者が 6,925名、内400mL献血者 6,795名
（400mL献血率98.1%）成分献血者が 9,302名

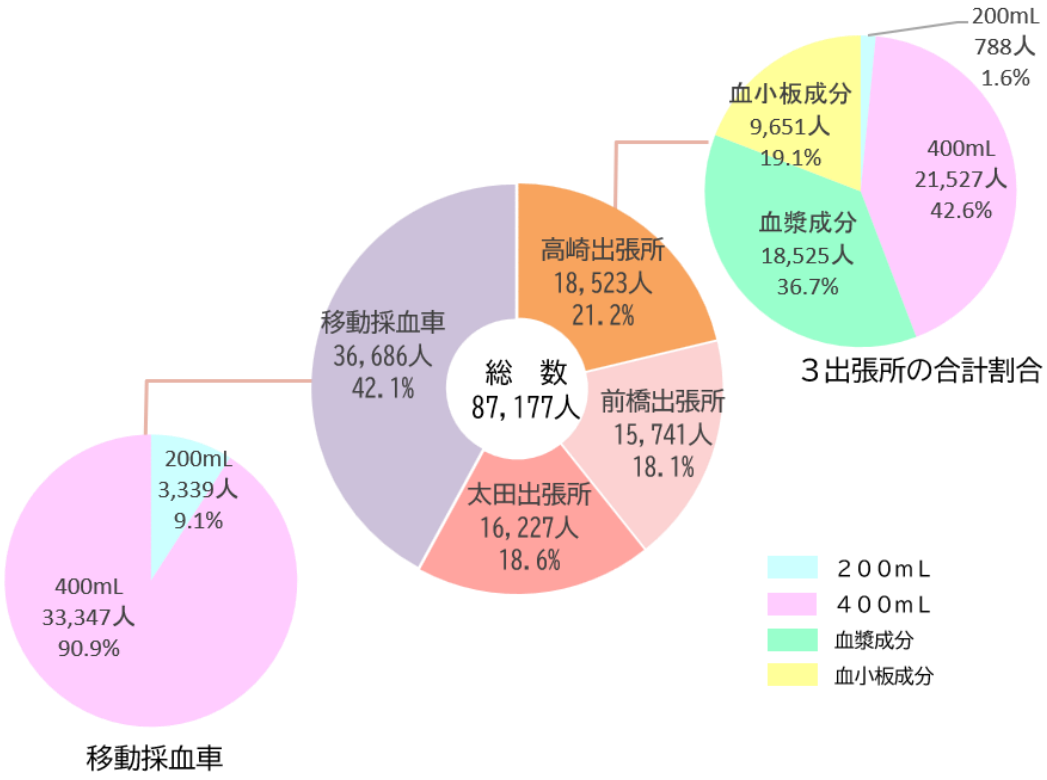
２ 移動採血車

県内各献血会場にて献血を行うため、４台の移動採血バスを運用しています。令和７年度は延べ803台稼働しました。受付者数は 39,539名（前年度比95.9%）、献血者数は36,686名（１台平均45.7名）（前年度比96.5%）でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は90.9%（前年度比 増減なし）でした。

３ 出張採血

令和７年度の実施はありませんでした。

令和７年度 施設別の献血状況



献血推進の概況

広報・キャンペーン活動

1．献血推進ポスター
　プロバスケットボールチーム
　「群馬クレインサンダーズ」



2．第15回夏休み親子献血教室
　日程　令和７年８月21日（木）・８月22日（金）
　会場　群馬県赤十字血液センター
　内容　血液や献血についての学習、献血バスでの献血模擬体験、埼玉製造所の見学、
　　血液保存庫の見学、血液運搬車の試乗





３．ぐんま赤十字フェスタ2025

日程　令和７年９月23日（火・祝）

会場　けやきウォーク前橋

内容　県内４つの赤十字施設が初めて合同イベントを開催
医療や救護、血液事業など赤十字の活動を体験や展示を通して紹介
血液センターは献血の模擬体験を出展

主催　日本赤十字社群馬県支部、前橋赤十字病院、原町赤十字病院、群馬県赤十字血液センター





４．全国学生クリスマス献血キャンペーン

日程　令和７年12月13日（土）・12月21日（日）

会場　けやきウォーク前橋

内容　学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び献血協力者へオリジナルグッズを進呈

主催　群馬県学生献血推進連盟





５．『前橋東照宮×献血』健康御守を進呈

日程　令和７年12月27日（土）～令和８年１月12日（月・祝）

場所　群馬県内献血ルーム、移動採血会場

内容　期間中、献血協力者に『前橋東照宮×献血』健康御守を進呈





６．『温泉むすめ×献血』キャンペーン

日程　令和８年３月15日（日）～４月15日（水）

場所　群馬県内献血ルーム、移動採血会場

内容　期間中、400mL献血協力者に描き下ろしイラスト「アクリルスタンド」と
「Ｂ２ポスター」を配付





© ONSEN MUSUME PROJECT

7．「第２回キッズ献血 in イオンモール太田」

日程　令和８年３月20日（金・祝）

場所　イオンモール太田

内容　献血の模擬体験





8．広報誌 ぐんまの赤十字

年１回発行



9．SNSによる情報発信

群馬県赤十字血液センター公式Facebook

FacebookID　100063535059694

群馬県赤十字血液センター公式X

@gunmakenketsu

献血 Web 会員サービス「ラブラッド」について

医療機関へ安定的に血液を供給し、輸血を受けられる患者さんが安心して治療を受けられるよう、輸血用の血液を十分に確保する必要があります。日本赤十字社では、平成18年に「複数回献血クラブ」を設立し、継続的に献血にご協力いただける方を募集してきました。そして、平成30年10月より利用者の方へのサービス向上を目的として、献血Web会員サービス「ラブラッド」へリニューアルしました。

ラブラッドに会員登録していただくと、血液の検査結果等を含む献血記録が献血後数日で確認できるほか、献血協力や予約等に応じてポイントが貯まり、一定のポイント数で記念品と交換できます。

また、住所やメールアドレス等の登録者情報もラブラッド上で変更が可能です。さらに、令和４年９月にはスマートフォン用アプリがリリースされ、「アプリ版献血カード」や「事前Web問診回答機能」の導入、「プレ会員」の登録等を開始しました。「プレ会員」とは献血可能年齢未満の方、献血未経験の方を対象とした会員制度です。プレ会員は献血に関するコンテンツの閲覧やクイズに答えることでポイントを貯めることができるほか、献血可能年齢までのカウントダウンがアプリ上に表示されます。献血を経験したことのない若い方々がプレ会員を通して早くから献血に触れることで、将来の若年層献血協力が期待されます。（※プレ会員の登録にはラブラッドアプリのダウンロードが必要です。ブラウザ版には対応しておりません。）

また、ラブラッドでは全国の献血会場（一部を除く）の献血をWebやアプリで予約できます。予約機能については会員登録をしなくても利用することができるほか、献血が初めての方もラブラッド上から予約のうえ事前に献血者情報の入力が可能です。

ラブラッド会員の皆様には、定期的にメール・LINEの配信を通して献血へのご協力をお願いしています。医療機関から緊急の要請があった場合にも即時に情報発信ができるため、献血者と患者を繋ぐ救命のネットワークとしてラブラッドはその重要性を高めています。その他にも県内の献血ルームや献血バスのキャンペーン・イベントのお知らせなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとしても活用しています。

令和７年度は献血依頼・要請およびキャンペーン等の情報を延べ 1,136,944件配信し、33,577名（応諾率3.0%）の方に献血のご協力をいただきました。

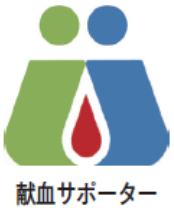
今後も継続的に会員数増加に勤しむとともに、より良いサービスを提供し、会員の皆様にとって利便性の高い情報ツールとなるよう努めます。

ラブラッド会員数　　77,180名
ラブラッドプレ会員数　　2,697名（令和８年３月31日現在）

献血サポーター

　献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



　国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

骨髄ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髄データセンター事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成３年度に国からの依頼を受け、骨髄データバンク登録事業者として中央骨髄データセンター及び各地域骨髄データセンターを設置し、骨髄バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。そして、平成25年10月１日には国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年１月１日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髄ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髄バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髄ドナー登録を推進しています。

令和７年度、群馬県内の新規骨髄ドナー登録者数は776名でした。その内、献血バスと併行した骨髄ドナー登録会（献血併行型登録会）での登録は683名でした。

令和７年度　骨髄ドナー登録受付状況　　単位：人

受付施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Ｈａｒｍｏｎｙ	6	5	4	3	1	0	1	1	3	4	2	1	31
前橋献血ルーム	4	2	2	2	4	2	5	4	8	1	3	1	38
太田献血ルーム	5	1	2	2	2	2	3	2	1	3	0	1	24
献血併行型登録会	82	94	39	57	57	63	52	51	96	31	32	29	683
合計	97	102	47	64	64	67	61	58	108	39	37	32	776

令和７年度　骨髄ドナー登録取消状況　　単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	28	22	36	29	31	34	29	37	55	33	35	30	399

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

骨髄ドナー登録状況

	群馬県内	〔全国〕
総登録者数：	12,971人	〔1,025,364人〕
実登録者数：	7,867人	〔564,145人〕
登録取消者数：	5,104人	〔461,219人〕

令和８年３月31日現在

群馬県内の骨髄ドナー登録受付窓口（固定施設）

○高崎駅献血ルーム　Harmony
○前橋献血ルーム
○太田献血ルーム

〔受付時間〕　10：00 ～ 12：00
　　14：00 ～ 17：00
〔休 業 日〕　年末年始

検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ学術情報・供給課で保管しています。

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



○開設年月日　平成 24 年２月 14 日
○所　在　地　〒355-0071
埼玉県東松山市大字新郷 493-1
○敷地面積　9,787.08 ㎡
○建物の構造　鉄骨造地上 3 階建
○延床面積　11,947.31 ㎡
関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東甲信越８都県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県、山梨県及び東京都の一部）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

●検　査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。



検査作業

検査項目

・血液型検査：
ＡＢＯ血液型検査、Ｒh 血液型検査、不規則抗体検査、HLA 検査(一部)

・ 感染症関連検査：
梅毒血清学的検査、B 型肝炎ウイルス検査(HBs 抗原、HBs 抗体、HBc 抗体)、C 型肝炎ウイルス検査(HCV 抗体)、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)(HIV－1、2 抗体)、HTLV-1 抗体検査、ヒトパルボウイルス B19 検査

・ 生化学検査：
ALT、γ-GTP、総蛋白(TP)、アルブミン(ALB)、アルブミン対グロブリン比(A / G 比)、コレステロール(CHOL)、グリコアルブミン(GA)

・ 血球計数検査：
赤血球数(RBC)、ヘモグロビン濃度(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)、平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)、白血球数(WBC)、血小板数(PLT)

・ 核酸増幅検査：
B 型肝炎ウイルス検査、C 型肝炎ウイルス検査、E 型肝炎ウイルス検査、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)検査



検査機器

このほか、必要に応じて HLA 関連検査(HLA 抗原検査・HLA 抗体検査・血小板抗体検査)、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。

●製　剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。
このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

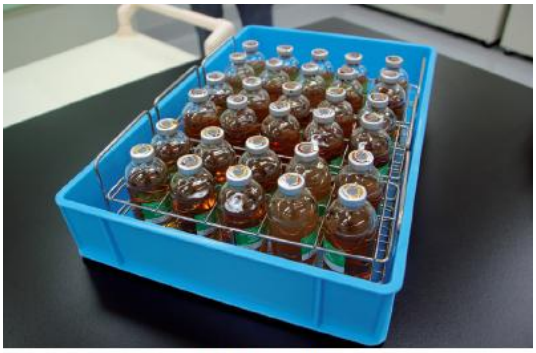
●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っており、令和７年度は209件の要請がありました。

令和７年度の県内供給数は77,616本で、前年度に対しては599本減少（前年度比99.2%）しました。

供給単位数では276,707単位で、前年度※に対しては5,124単位減少（前年度比98.2%）しました。

※比較のため前年度の血漿製剤単位を平成29年度からの単位換算に変更して算出

１．血小板製剤

供給単位数は145,610単位で、前年度に対して5,455単位減少（前年度比96.4%）でした。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、供給数に占める血小板製剤の構成比は52.6%と最も高くなっています。全国的な需要傾向（全国平均前年比102.1%）に対して、当県においては前年度より減少しました。

令和７年７月30日より、細菌感染症に対する新たな安全対策として、細菌スクリーニングを実施した血小板製剤の供給を開始しました。

２．血漿製剤

供給単位数※は28,416単位で、前年度に対して1,024単位増加（前年度比103.7%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比100.4%）に対して、当県においては前年度より増加しました。

※平成29年度より200mL献血由来製剤を１単位、400mL献血由来製剤を２単位、成分献血由来製剤を４単位として換算

３．赤血球製剤

供給単位数※は102,681単位で、前年度に対して693単位減少（前年度比99.3%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比99.3%）に対して、当県においても同様に推移しています。

※200mL献血由来製剤を１単位、400mL献血由来製剤を２単位として換算

４．全血製剤

令和７年度は供給がありませんでした。

医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術情報・供給課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられており、平成30年1月には副作用・感染症における調査方法が一部変更されました。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせへの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用していただくよう活動しています。

安全かつ適正な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として委員会の活動を支援しています。平成29年度には委員会内に看護師部会を新たに設置し、県内の学会認定・臨床輸血看護師を中心に活動を開始しました。輸血実態調査については、「貯血式自己血輸血」をテーマに実施し、その調査結果が令和７年度群馬県合同輸血療法委員会総会・講演会の総会の部において報告されました。併せて、群馬県赤十字血液センターから「血液事業の現状と献血者の確保」について報告するとともに、県内医療機関の方々から「輸血機能評価認定制度（I&A制度）の認定取得までの取り組み」及び「輸血に関するQ&A」についてご発表いただきました。講演会の部では、同日に開催された埼玉県合同輸血療法委員会主催の講演会と当県の講演会をオンラインでつなぎ、両県の看護師部会の活動報告ならびに今後の活動に関する意見交換を行いました。また、特別講演では、奈良県立医科大学 血液内科 教授 松本 雅則 先生より「最新ガイドラインの作成状況 -大量出血と輸血実践ガイド-」についてご講演いただきました。



医療機関への情報提供



群馬県合同輸血療法委員会
総会・講演会



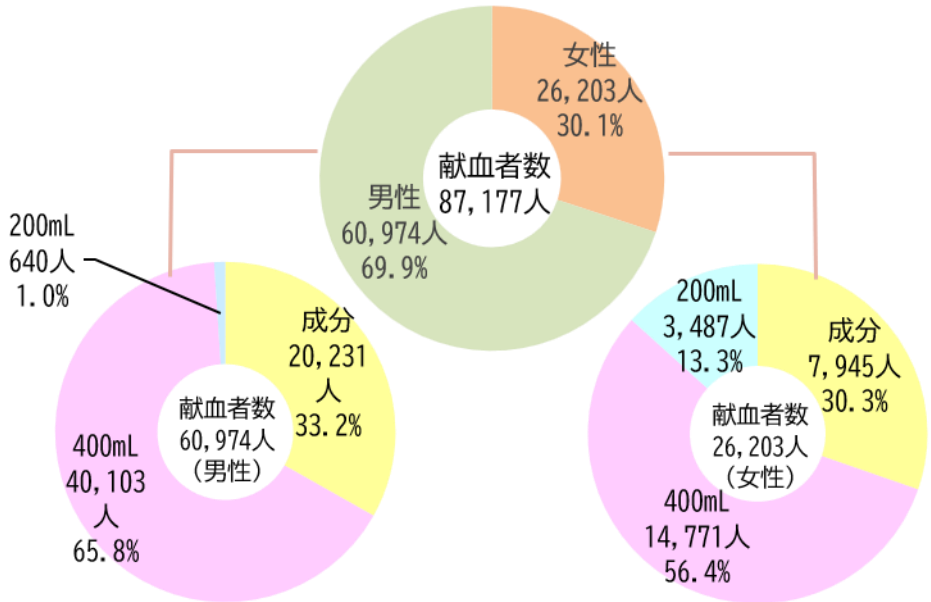
看護師部会及び学術係による
医療機関での自己血勉強会

統計資料

令和７年度　献血状況

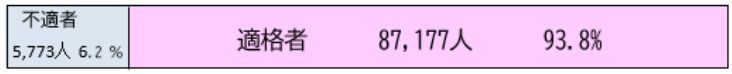
…. 200ｍＬ献血　　…. 400ｍＬ採血　　…. 成分献血採血

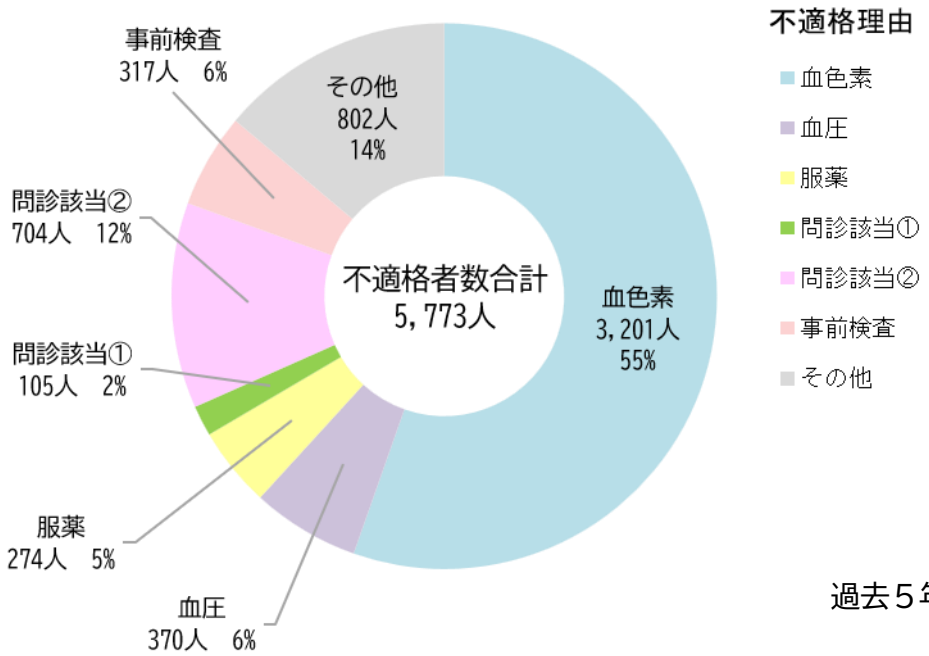
項目 / 年月	献血ルーム		採　血　車		計			
	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	男	女
令和７年度計	53, 411	50, 491	39, 539	36, 686	92, 950	87, 177	60, 974	26, 203
		28, 176		0		28, 176	20, 231	7, 945
		21, 527		33, 347		54, 874	40, 103	14, 771
		788		3, 339		4, 127	640	3, 487



献血出来なかった人の状況

令和７年度
献血不適格者数





過去５年間の状況

不適格率	
令和３年度	7.8%
令和４年度	8.1%
令和５年度	8.8%
令和６年度	7.0%
令和７年度	6.2%

血　色　素　…　血色素量が希望献血種類の採血基準に適合しない場合
血　　圧　…　血圧値が採血基準に適合しない場合
服　　薬　…　注射・服薬の状態が問診の基準を満たさない場合
問診該当①　…　チガソン服用、ヒト由来プラセンタ注射歴のある人、B型肝炎ウイルス保有者、慢性Ｂ型肝炎に罹患した人、C型肝炎・梅毒・マラリア・バベシア症・シャーガス病・リーシュマニア症・アフリカトリパノソーマ症、リーシュマニア症の既往、ｖＣＪＤに関連した欧州滞在歴、HIV関連事項、クロイツフェルト・ヤコブ病（ＣＪＤ）の関連事項
問診該当②　…　問診該当①以外に問診上不適格な理由がある場合（体調不良、海外帰国後４週間以内等）
事 前 検 査　…　血算、心電図検査、体温（37.5℃以上）、脈拍数で不適格の場合
そ　の　他　…　献血者の意思変更、血管が細い、本採血前のVVR、などの理由で不適格の場合

献血不適格者の状況

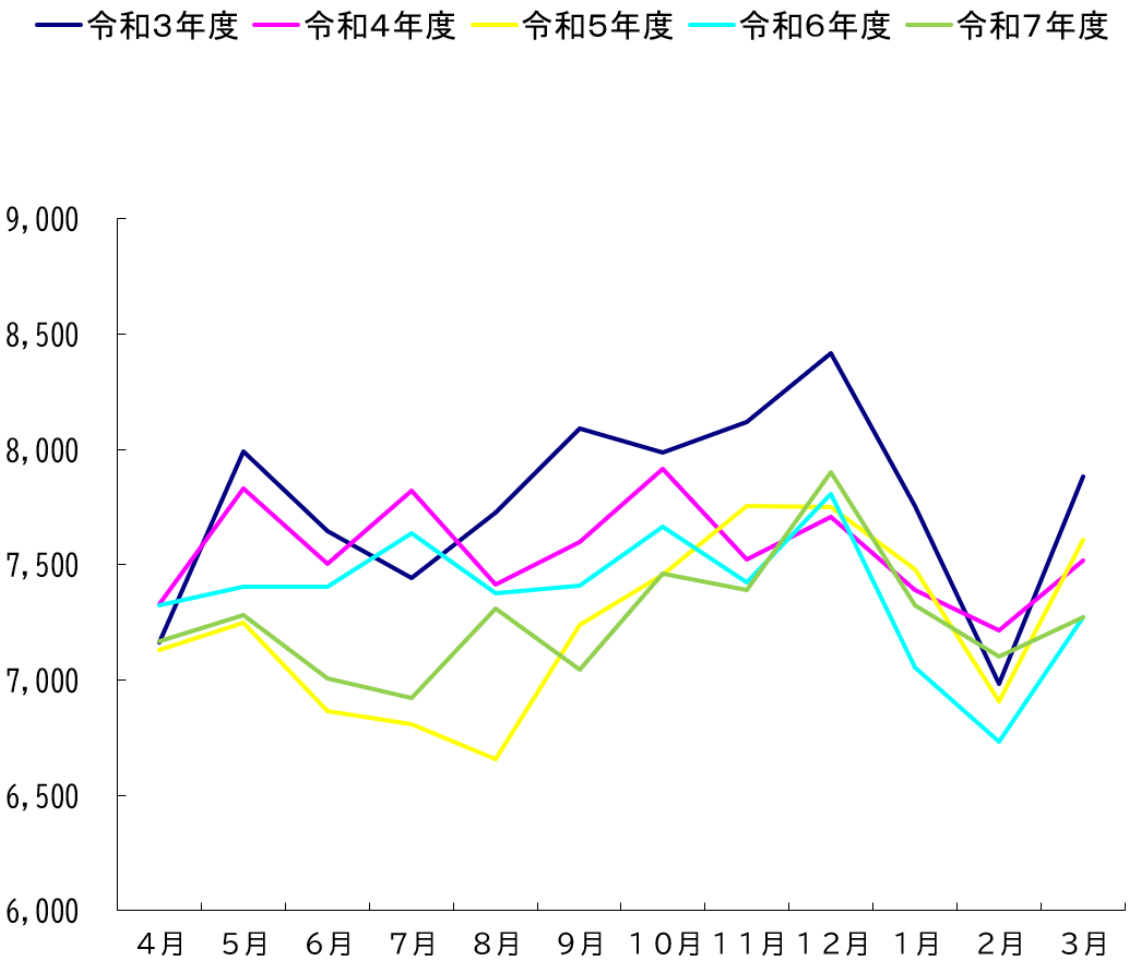
不適理由	血色素	血圧	服薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合計
男	929	261	177	66	422	206	342	2,403
女	2,272	109	97	39	282	111	460	3,370
合　計	3,201	370	274	105	704	317	802	5,773

令和７年度　市町村別献血者数

		人口（A）	受付者数	全血献血数			成分献血			総献血者数（B）	献血率(%)（B)/（A）
				200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合　計		1,869,764	92,950	4,127	54,874	59,001	9,651	18,525	28,176	87,177	4.7%
前橋ルーム			16,526	291	6,483	6,774	3,304	5,663	8,967	15,741	
高崎ルーム			19,642	367	8,249	8,616	2,964	6,943	9,907	18,523	
太田ルーム			17,243	130	6,795	6,925	3,383	5,919	9,302	16,227	
管内　合計			39,539	3,339	33,347	36,686	0	0	0	36,686	
	前橋市	324,310	7,684	580	6,530	7,110	0	0	0	7,110	2.2%
前橋市保健所管内　計		324,310	7,684	580	6,530	7,110	0	0	0	7,110	2.2%
	高崎市	364,467	6,803	760	5,547	6,307	0	0	0	6,307	1.7%
高崎市保健所管内　計		364,467	6,803	760	5,547	6,307	0	0	0	6,307	1.7%
渋川	渋川市	69,674	1,552	205	1,224	1,429	0	0	0	1,429	2.1%
渋川	榛東村	14,100	481	4	460	464	0	0	0	464	3.3%
渋川	吉岡町	22,854	594	20	532	552	0	0	0	552	2.4%
保健福祉事務所管内　計		106,628	2,627	229	2,216	2,445	0	0	0	2,445	2.3%
伊勢崎	伊勢崎市	210,043	6,115	236	5,424	5,660	0	0	0	5,660	2.7%
伊勢崎	玉村町	34,922	517	34	452	486	0	0	0	486	1.4%
保健福祉事務所管内　計		244,965	6,632	270	5,876	6,146	0	0	0	6,146	2.5%
安中	安中市	50,827	805	44	709	753	0	0	0	753	1.5%
保健福祉事務所管内　計		50,827	805	44	709	753	0	0	0	753	1.5%
藤岡	藤岡市	59,582	1,240	103	1,070	1,173	0	0	0	1,173	2.0%
藤岡	上野村	962	42	1	36	37	0	0	0	37	3.8%
藤岡	神流町	1,337	44	3	41	44	0	0	0	44	3.3%
保健福祉事務所管内　計		61,881	1,326	107	1,147	1,254	0	0	0	1,254	2.0%
富岡	富岡市	44,020	1,189	55	1,061	1,116	0	0	0	1,116	2.5%
富岡	下仁田町	5,404	64	3	59	62	0	0	0	62	1.1%
富岡	南牧村	1,234	8	0	7	7	0	0	0	7	0.6%
富岡	甘楽町	11,855	68	3	60	63	0	0	0	63	0.5%
保健福祉事務所管内　計		62,513	1,329	61	1,187	1,248	0	0	0	1,248	2.0%
吾妻	中之条町	13,933	260	21	222	243	0	0	0	243	1.7%
吾妻	長野原町	4,610	75	4	64	68	0	0	0	68	1.5%
吾妻	嬬恋村	8,200	156	8	140	148	0	0	0	148	1.8%
吾妻	草津町	5,789	114	6	100	106	0	0	0	106	1.8%
吾妻	高山村	3,094	18	0	17	17	0	0	0	17	0.5%
吾妻	東吾妻町	11,099	549	15	499	514	0	0	0	514	4.6%
保健福祉事務所管内　計		46,725	1,172	54	1,042	1,096	0	0	0	1,096	2.3%
利根沼田	沼田市	40,995	1,134	133	916	1,049	0	0	0	1,049	2.6%
利根沼田	片品村	3,460	77	6	64	70	0	0	0	70	2.0%
利根沼田	川場村	3,154	207	10	184	194	0	0	0	194	6.2%
利根沼田	昭和村	6,554	182	16	158	174	0	0	0	174	2.7%
利根沼田	みなかみ町	15,379	446	30	390	420	0	0	0	420	2.7%
保健福祉事務所管内　計		69,542	2,046	195	1,712	1,907	0	0	0	1,907	2.7%
東部	太田市	221,134	3,812	335	3,206	3,541	0	0	0	3,541	1.6%
保健福祉事務所管内　計		221,134	3,812	335	3,206	3,541	0	0	0	3,541	1.6%
桐生	桐生市	96,766	2,073	366	1,541	1,907	0	0	0	1,907	2.0%
桐生	みどり市	47,540	475	28	400	428	0	0	0	428	0.9%
保健福祉事務所管内　計		144,306	2,548	394	1,941	2,335	0	0	0	2,335	1.6%
館林	館林市	72,722	1,420	182	1,121	1,303	0	0	0	1,303	1.8%
館林	板倉町	13,041	151	21	125	146	0	0	0	146	1.1%
館林	明和町	10,358	205	38	154	192	0	0	0	192	1.9%
館林	千代田町	10,277	257	11	223	234	0	0	0	234	2.3%
館林	大泉町	41,450	501	49	414	463	0	0	0	463	1.1%
館林	邑楽町	24,618	221	9	197	206	0	0	0	206	0.8%
保健福祉事務所管内　計		172,466	2,755	310	2,234	2,544	0	0	0	2,544	1.5%

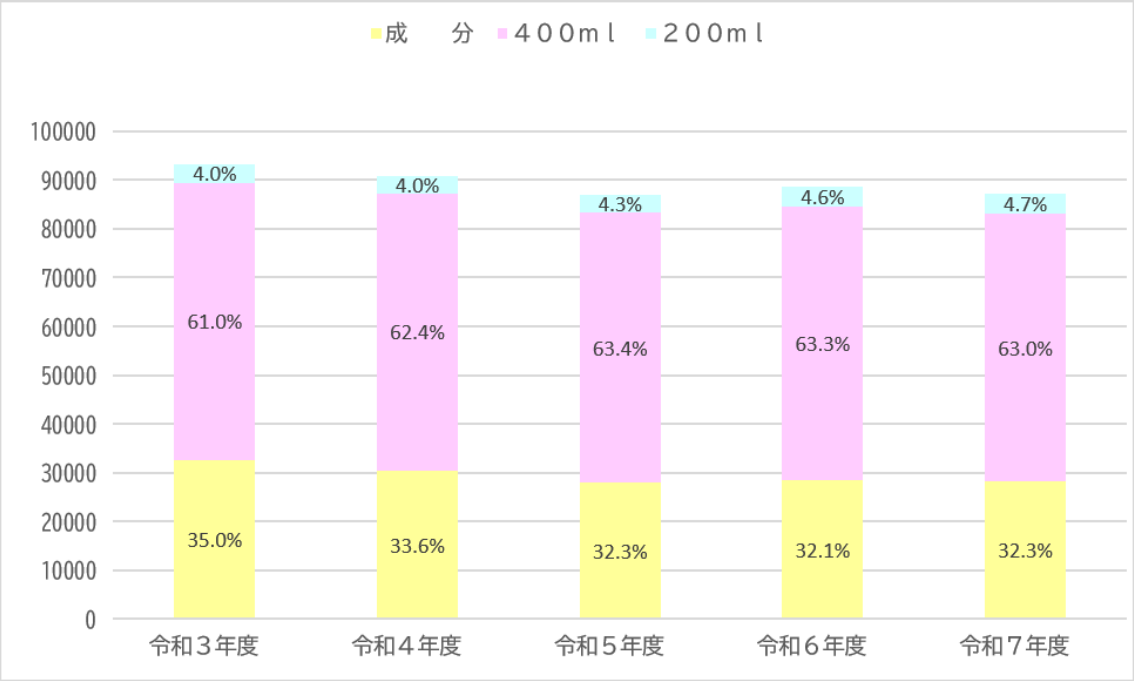
人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」令和８年３月１日現在

過去５年間の月別献血状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和３年度	7,164	7,989	7,645	7,443	7,726	8,089	7,985	8,119	8,418	7,753	6,984	7,884	93,199
令和４年度	7,327	7,828	7,505	7,820	7,414	7,599	7,913	7,522	7,708	7,389	7,217	7,518	90,760
令和５年度	7,132	7,248	6,864	6,807	6,658	7,241	7,458	7,756	7,750	7,479	6,906	7,607	86,906
令和６年度	7,322	7,403	7,402	7,637	7,377	7,411	7,665	7,423	7,805	7,055	6,732	7,273	88,505
令和７年度	7,166	7,279	7,008	6,920	7,312	7,043	7,462	7,389	7,903	7,322	7,102	7,271	87,177
月別平均	7,222	7,549	7,285	7,325	7,297	7,477	7,697	7,642	7,917	7,400	6,988	7,511	

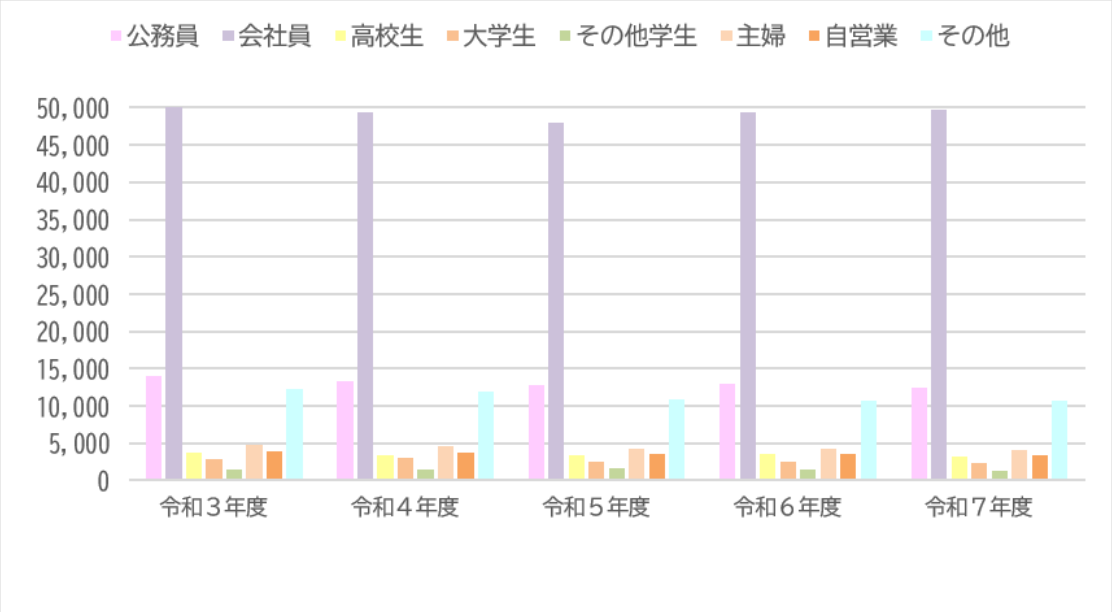
過去５年間の採血別別献血状況



種別＼年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
成　分	32,584	30,498	28,096	28,459	28,176
４００ｍｌ	56,867	56,619	55,113	55,992	54,874
２００ｍｌ	3,748	3,643	3,697	4,054	4,127
合　計	93,199	90,760	86,906	88,505	87,177

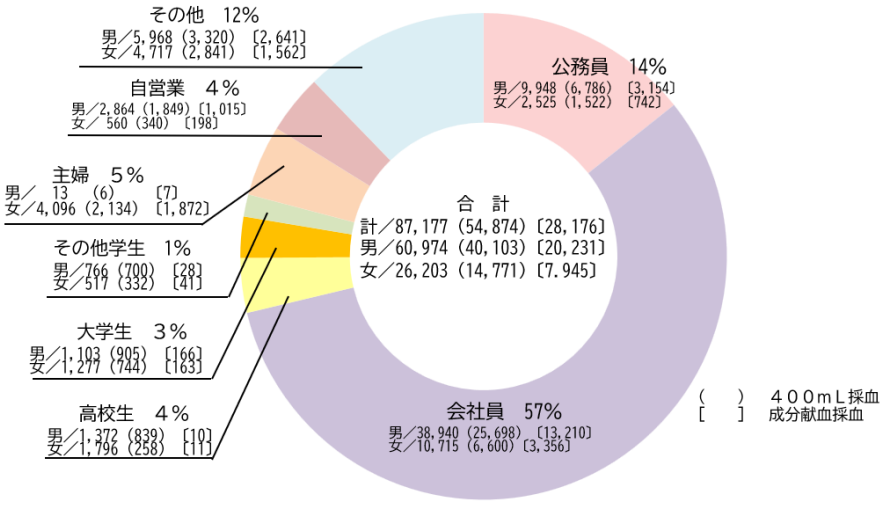
（人）

過去５年間の職業別献血者状況

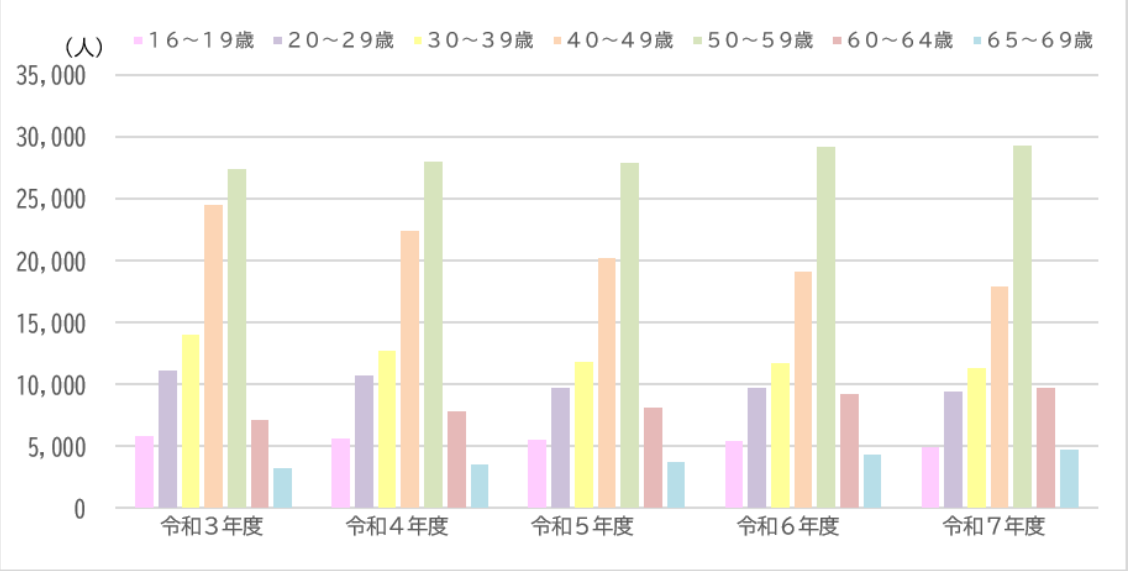


職業別＼年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
公務員	14,067	13,317	12,849	12,955	12,473
会社員	50,204	49,441	47,933	49,433	49,655
高校生	3,691	3,323	3,312	3,473	3,168
大学生	2,819	3,032	2,484	2,562	2,380
その他学生	1,522	1,465	1,628	1,436	1,283
主婦	4,803	4,651	4,219	4,290	4,109
自営業	3,805	3,673	3,597	3,622	3,424
その他	12,288	11,858	10,884	10,734	10,685
合　　計	93,199	90,760	86,906	88,505	87,177

（人）



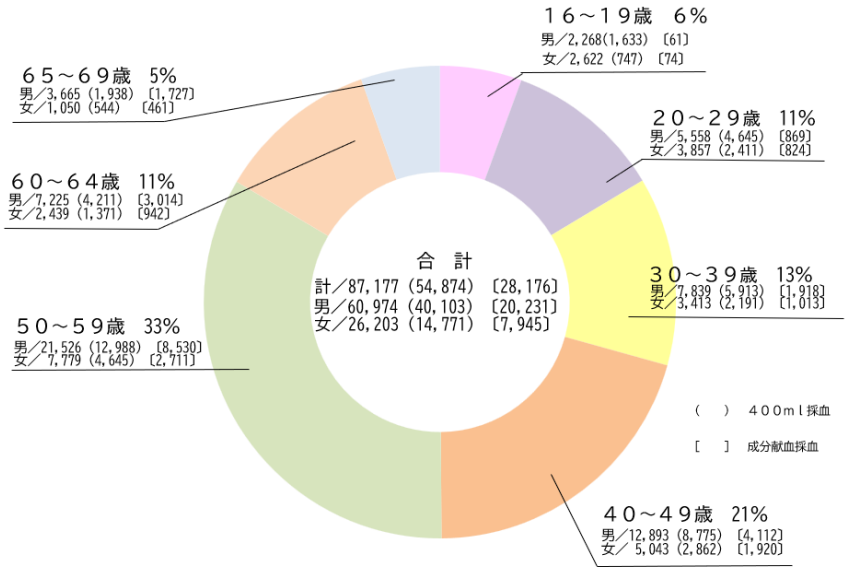
過去５年間の年齢別献血状況



年齢別＼年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
１６～１９歳	5,851	5,580	5,465	5,401	4,890
２０～２９歳	11,127	10,727	9,702	9,659	9,415
３０～３９歳	14,038	12,695	11,784	11,686	11,252
４０～４９歳	24,472	22,372	20,198	19,136	17,936
５０～５９歳	27,348	28,015	27,877	29,166	29,305
６０～６４歳	7,138	7,822	8,147	9,194	9,664
６５～６９歳	3,225	3,549	3,733	4,263	4,715
合　　計	93,199	90,760	86,906	88,505	87,177

■令和７年度年齢別献血者数

（人）



血液型別供給本数（管内）　　（単位：本）

	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
全血製剤	人全血液-LR「日赤」	WB-LR-1	0	0	0	0	0
		WB-LR-２	0	0	0	0	0
	照射人全血液-LR「日赤」	Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-２	0	0	0	0	0
		合　計	0	0	0	0	0

	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
赤血球製剤	赤血球液-LR「日赤」	RBC-LR-1	0	0	0	0	0
		RBC-LR-2	156	155	100	64	475
	照射赤血球液-LR「日赤」	Ir-RBC-LR-1	922	693	503	213	2,331
		Ir-RBC-LR-2	19,195	15,329	10,355	4,792	49,671
	洗浄赤血球液-LR「日赤」	WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射洗浄赤血球液-LR「日赤」	Ir-WRC-LR-1	0	0	2	0	2
		Ir-WRC-LR-2	24	1	3	0	28
	解凍赤血球液-LR「日赤」	FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射解凍赤血球液-LR「日赤」	Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
	合成血液-LR「日赤」	BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
	照射合成血液-LR「日赤」	Ir-BET-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-BET-LR-2	0	0	0	0	0
		合　計	20,297	16,178	10,963	5,069	52,507

*平成 26 年８月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LR は、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」」Ir-RBC-LR へ変更。

（単位：本）

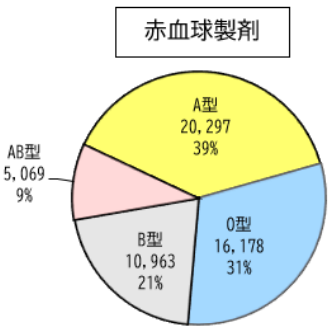
	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
血漿製剤	新鮮凍結血漿-LR「日赤」120	FFP-LR 120	15	16	37	8	76
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」240	FFP-LR 240	2,436	2,142	1,362	942	6,882
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480	FFP-LR 480	1,449	1,006	770	419	3,644
		合　計	3,900	3,164	2,169	1,369	10,602

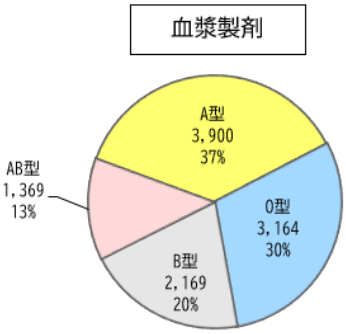
＊平成 25 年９月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Ap は、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480 へ変更。

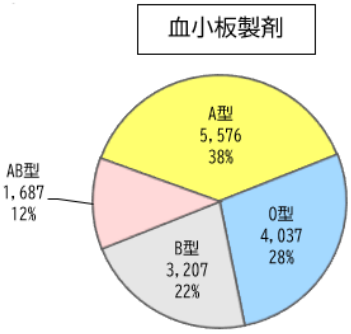
	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
血小板製剤	濃厚血小板-LR「日赤」	PC-LR-1	0	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	0	0	0	0	0
		PC-LR-10	46	68	2	8	124
		PC-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-LR-20	0	0	0	0	0
	照射濃厚血小板-LR「日赤」	Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	0	0	2	3	5
		Ir-PC-LR-10	1,471	1,220	880	481	4,052
		Ir-PC-LR-15	0	0	2	1	3
		Ir-PC-LR-20	15	2	5	1	23
	濃厚血小板 HLA-LR「日赤」	PC-HLA-LR-10	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
	照射濃厚血小板 HLA-LR「日赤」	Ir-PC-HLA-LR-10	37	78	15	38	168
		Ir-PC-HLA-LR-15	0	1	0	0	1
		Ir-PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
	照射洗浄血小板-LR「日赤」	Ir-WPC-LR	59	1	56	20	136
	照射洗浄血小板 HLA-LR「日赤」	Ir-WPC-HLA-LR	3	14	1	21	39
		合　計	1,631	1,384	963	573	4,551

	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
血小板製剤	照射濃厚血小板-LRBS「日赤」	Ir-PC-LRBS-5	55	31	26	9	121
		Ir-PC-LRBS-10	3,692	2,443	2,003	961	9,099
		Ir-PC-LRBS-15	1	0	0	1	2
		Ir-PC-LRBS-20	32	31	26	3	92
	照射濃厚血小板 HLA-LRBS「日赤」	Ir-PC-HLA-LRBS-5	2	0	0	0	2
		Ir-PC-HLA-LRBS-10	72	78	19	29	198
		Ir-PC-HLA-LRBS-15	0	0	0	0	0
		Ir-PC-HLA-LRBS-20	0	0	0	0	0
	照射洗浄血小板-LRBS「日赤」	Ir-WPC-LRBS-10	90	37	122	109	358
	照射洗浄血小板 HLA-LRBS「日赤」	Ir-WPC-HLA-LRBS-10	1	33	48	2	84
	合　　計		3,945	2,653	2,244	1,114	9,956

*令和７年７月より、照射濃厚血小板-LRBS「日赤」以下を供給開始。



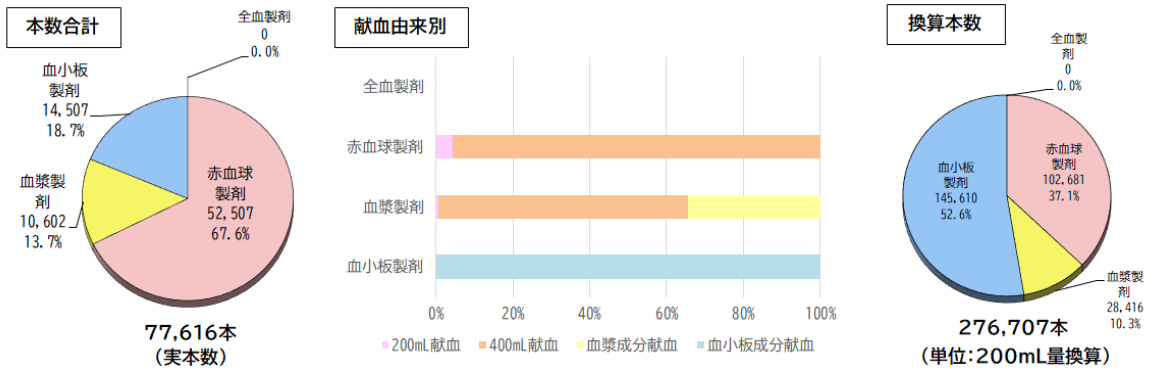




血液製剤種類別供給数（管内）

（単位：本）　（単位：200mL 量換算）

	１単位製剤	２単位製剤	４単位製剤	成分 ５単位	成分 １０単位	成分 １５単位	成分 ２０単位	本数合計	換算本数
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	2,333	50,174	0	0	0	0	0	52,507	102,681
血漿製剤	76	6,882	3,644	0	0	0	0	10,602	28,416
血小板製剤	0	0	0	128	14,258	6	115	14,507	145,610
合計	2,409	57,056	3,644	128	14,258	6	115	77,616	276,707

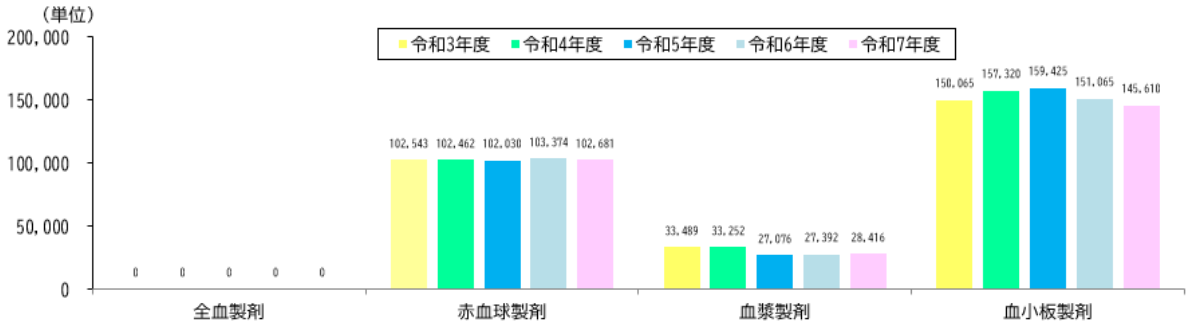


輸血用血液製剤の推移（管内）

（単位：200mL 量換算）

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
令和３年度	286,097	0	102,543	33,489	150,065
令和４年度	293,034	0	102,462	33,252	157,320
令和５年度	288,531	0	102,030	27,076	159,425
令和６年度	281,831	0	103,374	27,392	151,065
令和７年度	276,707	0	102,681	28,416	145,610

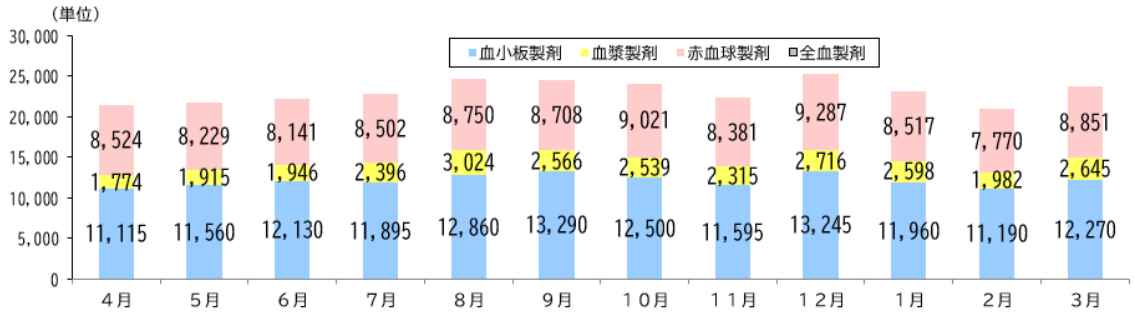
※平成29年度より血漿製剤の単位換算を変更



月別供給本数（管内）

（単位：200mL 量換算）

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	102,681	8,524	8,229	8,141	8,502	8,750	8,708	9,021	8,381	9,287	8,517	7,770	8,851
血漿製剤	28,416	1,774	1,915	1,946	2,396	3,024	2,566	2,539	2,315	2,716	2,598	1,982	2,645
血小板製剤	145,610	11,115	11,560	12,130	11,895	12,860	13,290	12,500	11,595	13,245	11,960	11,190	12,270
合計	276,707	21,413	21,704	22,217	22,793	24,634	24,564	24,060	22,291	25,248	23,075	20,942	23,766



令和７年度　表彰（団体のみ表記）

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「群馬県献血功労者等表彰式」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。　（敬称略）

■厚生労働大臣　表彰状

株式会社群馬銀行
群馬県立前橋東高等学校

■厚生労働大臣　感謝状

群栄化学工業株式会社　群馬工場
株式会社ボルテックスセイグン
城東電機産業株式会社

■群馬県献血推進特別功労者（団体）

協同組合前橋生鮮食料品総合卸売市場
群馬県立高崎産業技術専門校
株式会社吉野工業所　群馬工場
群馬県立太田高等学校
群馬県立板倉高等学校

■群馬県献血推進協議会長感謝状

NTT東日本株式会社　群馬支店
クラブフォーティー（昭和四十年会）
株式会社ファミリーマート　群馬事務所
前橋桜ボーイズ

■日本赤十字社社長感謝状

日本精工株式会社　高崎・榛名地区統括　高崎工場
沖電気工業株式会社　富岡工場

■献血団体　金色有功章　（20年以上）

小倉クラッチ株式会社　香林工場

■献血団体　群馬県支部長感謝状金枠（10年以上）

群馬ヰセキ販売株式会社

■献血団体　群馬県支部長感謝状銀枠（５年以上）

利根沼田農業協同組合　営農経済総合センター

学校法人　群馬パース大学

■献血推進団体　銀色有功章　（15年以上）

ライオンズクラブ国際協会333-D地区　第3R第2Z　富岡ライオンズクラブ

■日本赤十字社血液事業本部長賞

ルネサスエレクトロニクス株式会社

令和７年度迄の献血記録

項　　目	年 月 日	献血者数	摘　　要	備　　考
開設以来延献血者数	令和８年３月末日	5,152,253	自昭和37年11月 至令和８年３月	
開設以来母体延献血者数	平成10年８月末日	228,910	自昭和37年11月 至平成10年８月	
開設以来献血ルーム延献血者数	令和８年３月末日	1,326,613	自平成５年10月 至令和８年３月	
開設以来採血車延献血者数	令和８年３月末日	3,483,973	自昭和37年11月 至令和８年３月	
開設以来出張延献血者数	令和７年３月末日	112,757	自平成２年４月 至令和７年３月	
年間最高人数	昭和60年度	131,336		
月間最高人数	昭和60年７月	13,420		配車台数114台
母体一日最高人数	平成７年１月21日	168		
献血ルーム一日最高人数	平成10年９月１日	140	前橋ハートランド オープニング	
出張採血一日最高人数	平成３年１月７日	230	県庁	
採血車一日最高人数	昭和60年11月19日	861		配車台数５台
採血車一台最高人数	昭和55年６月13日	311	渋川高等学校	
市民献血一日最高人数	昭和59年２月16日	356	桐生市	配車台数３台
町民献血一日最高人数	昭和63年９月９日	175	大間々町	
官庁献血一日最高人数	平成２年１月５日	327	県庁	配車台数２台
事業所献血一日最高人数	昭和60年２月27日	596	沖電気高崎事業所	配車台数３台
大学献血一日最高人数	昭和60年６月26日	311	群馬大学教育学部	配車台数２台
高校献血一日最高人数	昭和61年１月20日	546	高崎工業高等学校	配車台数３台
団体献血一日最高人数	昭和54年８月29日	420	大間々ライオンズ クラブ	配車台数２台

施設別年間最高献血本数

項　　目	年 月 日	献血者数	摘　　要	備　　考
市民献血	昭和59年度	2,877	桐生市	配車台数延29台
町民献血	平成４年度	941	玉村町	配車台数延14台
村民献血	昭和61年度	724	笠懸町	配車台数延５台
官庁献血	平成元年度	1,339	県庁	配車台数延９台
事業所献血	昭和61年度	3,589	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
大学献血	昭和60年度	1,257	群馬大学教育学部	配車台数延10台
高校献血	平成元年度	1,197	樹徳高校	配車台数延６台
団体献血（主催）	昭和57年度	1,774	立正佼成会高崎協会	配車台数延16台
団体献血（協力）	平成11年度	4,202	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

あ　ゆ　み　　令和８年８月

編　集　　群馬県赤十字血液センター総務課

発　行　　群馬県赤十字血液センター

群馬県赤十字血液センター

〒379－2154　前橋市天川大島町2－31－13

電　話　０２７－２２４－２１１８

https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/gunma/